

安全データシート

改訂日:2022年8月8日

1. 製品及び会社情報

化学品の名称
推奨用途
会社名
住所
電話番号

イソオクタン
試験研究用
米山薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町2丁目3番11号
(06)6231-3555(大阪・本社)
(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)
(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
AB0022

整理番号

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性
健康に対する有害性

引火性液体:区分2
皮膚腐食性及び皮膚刺激性:区分2
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性:区分2
特定標的臓器毒性(単回ばく露):区分2(中枢神経系)
区分3(気道刺激性)

環境に対する有害性

誤えん有害性:区分1
水生環境有害性 短期(急性):区分1
水生環境有害性 長期(慢性):区分1

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

危険

引火性の高い液体及び蒸気
皮膚刺激
強い眼刺激
中枢神経系の障害のおそれ
呼吸器への刺激のおそれ
飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ
水生生物に非常に強い毒性
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】

熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁
容器を密閉しておくこと。

容器を接地すること/アースをとること。

防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

取扱後はよく手を洗うこと。

環境への放出を避けること。

【応急措置】

火災の場合:消火するために適切な消火剤を使用すること。

飲み込んだ場合:無理に吐かせないこと。直ちに医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合:多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合:医師の診断、手当てを受けること。

吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は医師に連絡すること。

眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合:医師の診断/手当てを受けること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

漏出物を回収すること。

【保管】

容器を密閉して涼しく換気の良い場所で施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を国又は都道府県の規則に従って廃棄すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別

化学名

化学物質

別名

2,2,4-トリメチルペンタン

化学式

イソオクタン

化学物質を特定できる一般的な番号

 $\text{CH}_3\text{C}(\text{CH}_3)_2\text{CH}_2\text{CH}(\text{CH}_3)\text{CH}_3$

含有量

CAS RN: 540-84-1

官報公示整理番号(化審法、安衛法)

99%以上

その他

(2)-8 / 公表

HSコード: 2901.10

4. 応急措置	
吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合	医師の手当、診断を受けること。 汚染された衣類を脱ぐこと。 皮膚を速やかに多量の水と石けん(鹸)で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合	汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。 水で数分間、注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 直ちに医師に連絡すること。
予測できる急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状	吸入: 錯乱。めまい。頭痛。吐き気。嘔吐。 皮膚: 皮膚の乾燥。発赤。痛み。 眼: 充血。
応急処置をするものの保護	経口摂取: 「吸入」参照。 救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。
5. 火災時の措置	
適切な消火剤	小火災: 二酸化炭素、粉末消火剤、一般の泡消火剤 大火災: 散水、噴霧水、一般の泡消火剤
使ってはならない消火剤 特有の危険有害性	棒状注水 加熱により容器が爆発するおそれがある。 火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある引火性液体及び蒸気。
特有の消火方法	引火点が極めて低い: 消火の効果がない大きな火災の場合には散水する。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。
消火を行う者の保護	
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。 風上に留まる。 低地から離れる。
環境に対する注意事項	密閉された場所に立入る前に換気する。 河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。 環境中に放出してはならない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	危険でなければ漏れを止める。 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。 少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。 少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。 大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。 危険でなければ漏れを止める。 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。 蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。 すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火災の禁止)。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策(局所排気、全体換気等)	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 局所排気、全体換気を行う。
安全取扱注意事項	すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 使用する電気設備は、防爆構造とし、機器類は設置する。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 眼に入れないこと。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 「10. 安定性及び反応性」を参照。
接触回避	

保管	
安全な保管条件	保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。 保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設けること。 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。-禁煙。 冷所、換気の良い場所で保管すること。 酸化剤から離して保管する。 容器は直射日光や火気を避けること。 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。 施錠して保管すること。 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。
容器包装材料	
8. 暴露防止及び保護措置	
許容濃度	
管理濃度	未設定
日本産業衛生学会	300ppm
ACGIH	TLV-TWA 300ppm
設備対策	防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行なうこと。
保護具	
呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
皮膚及び身体の保護具	顔面用の保護具、衣類及び防護靴等を着用すること。
9. 物理的及び化学的性質	
物理状態	無色の液体
臭い	ガソリン臭
融点/凝固点	-107°C
沸点又は初留点及び沸点範囲	99°C
燃焼性	該当しない
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	1.1~6.0%
引火点	-12°C
自然発火温度	417°C
分解温度	該当情報なし
pH	該当情報なし
動粘性率(粘度)	該当情報なし
溶解度	水に不溶。 アルコール、エーテル、アセトン、ベンゼン等に可溶。
n-オクタノール/水分分配係数	該当情報なし
蒸気圧	5.1 kPa (20°C)
密度及び/又は相対密度	0.692
相対ガス密度	3.9 (空気=1)
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	該当情報なし
10. 安定性及び反応性	
反応性、化学的安定性	通常の条件においては、安定である。
危険有害反応可能性	強酸化剤と反応する。
避けるべき条件	日光、熱、その他発火源
混触危険物質	酸化剤
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素
11. 有害性情報	
急性毒性	経口: 該当情報なし 経皮: 該当情報なし 吸入(ミスト): マウス LC ₄₀ 20~30g/m ³ ・2H マウス LC ₁₀₀ 50g/m ³ ・2H
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	皮膚を刺激する。皮膚の脱脂を起こす。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	眼を刺激する。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	該当情報なし
生殖細胞変異原性	該当情報なし
発がん性	該当情報なし
生殖毒性	該当情報なし
特定標的臓器毒性(単回暴露)	人では、1g/m ³ の濃度を5分間吸入させると、目及び上気道に刺激が現れ、0.5~1g/m ³ を40分間吸入させると膝蓋腱反射が変化した。ウサギに1~2g/m ³ の濃度を暴露すると無条件屈筋反射が変化した、中枢神経系の反応の不安定さを示した。

特定標的臓器毒性(反復暴露) 誤えん有害性	該当情報なし 気道を刺激する。この液体を飲み込むと、肺に吸い込んで化学性肺炎を起こすことがある。
12. 環境影響情報 生態毒性	短期: ヒメダカ LC ₅₀ (96hr) 0.561mg/L (急性) 長期: 急性毒性が強く難分解性であることから長期的に毒性が強いと推定される。 (慢性) 難分解性(0% by BOD) 低濃縮性(濃縮倍率 440~580 10 μg/L, 460~650 1 μg/L) 該当情報なし 当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
残留性・分解性 生体蓄積性 土壌中の移動性 オゾン層への有害性	
13. 廃棄上の注意 残余廃棄物	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意 国連番号 品名(国連輸送名) 国連分類 容器等級 輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	1262 オクタン類 3 II 危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。 危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。 危険物の運搬中、危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
国内規制がある場合の規制情報 陸上輸送 海上輸送 航空輸送 応急措置指針番号	消防法の規定に従う。 船舶安全法の規定に従う。 航空法の規定に従う。 128
15. 適用法令 化学物質管理促進法(PRTR法) 毒物及び劇物取締法 消防法 労働安全衛生法 海洋汚染防止法 船舶安全法 航空法 港則法	指定化学物質に該当しない。 毒物及び劇物に該当しない。 危険物第4類第1石油類非水溶性液体 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物[オクタン] [施行令別表9] 危険性又は有害性を調査すべき物[オクタン] 危険物・引火性の物 有害液体物質(X類) 危険物・引火性液体類 危険物・引火性液体 危険物・引火性液体類
16. その他の情報 参考文献	NITE-CHRIP(製品評価技術基盤機構HP) 16615の化学商品(化学工業日報社) 化学品安全管理データブック(化学工業日報社) 職場のあんぜんサイト(厚労省HP) 国際化学物質安全性カード(ICSC) NITE-GHS分類結果(製品評価技術基盤機構HP) The Sigma-Aldrich Library of Chemical Safety Data Edition II 産業中毒便覧(医歯薬出版)

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。